

週刊

EVANGELION

C H O N I C L E

エヴァンゲリオン・クロニクル

06

定価690円(税込)

2010/3/16

Mechanic Sheet

エヴァンゲリオン初号機 B

防護服

Character Sheet

碓ゲンドウ A

オーバー・ザ・レインボウの
艦長 副長

Tactics Sheet

第6使徒ガギエル遭遇戦

Timeline Sheet

ヤマアラシのジレンマ

Installation Sheet

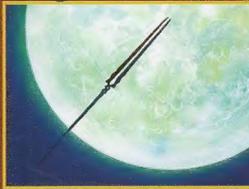
人類補完委員会

Technology Sheet

ロンギヌスの槍

Extra Sheet

用語辞典／企画書／トピックス



特製バインダー
発売中!

汎用人型決戦兵器
人造人間 エヴァンゲリオン



初号機



NERV最強の
使徒殲滅兵器



NERV

EVA-01

TEST TYPE

Mechanic Sheet

エヴァンゲリオン 初号機
EVANGELION TEST TYPE
Sheet 01

EVANGELION TEST TYPE
MECHANIC SHEET

使徒殲滅の要たるEVA

対使徒用兵器としての名を裏切らない結果を残したEVA初号機。しかしながら、操縦者の碓シンジが危機に陥ったときに発現する“暴走”こそ、初号機の勝利の要因であり、その戦果は必ずしもシンジの實力とEVAの性能によるものばかりではない。

使徒との交戦記録

- 第3使徒サキエル
暴走により殲滅
- 第4使徒シャムシエル
単独にて殲滅
- 第5使徒ラミエル
一旦敗北。再戦後に殲滅
- 第6使徒ガギエル
交戦せず
- 第7使徒イスラフェル
一旦敗北。再戦後に殲滅
- 第8使徒サンダルフォン
交戦せず
- 第9使徒マトリエル
チームプレイにて殲滅
- 第10使徒サハクィエル
チームプレイにて防衛担当
- 第11使徒イロウル
交戦せず
- 第12使徒レリエル
暴走により殲滅
- 第13使徒バルディエル
ダミーシステムにより殲滅
- 第14使徒ゼルエル
暴走により殲滅
- 第15使徒アラエル
交戦せず
- 第16使徒アルミサエル
参戦のみ
- 第17使徒タブリス
単独にて殲滅

DATA

機体・EVA-01 TEST TYPE

初号機

操縦者: 3rd Children

碓シンジ

主武装: WEAPON

バレットライフル
ハンドガン
プログレッシブ・ナイフ 等

機体配色: COLOR



そう、逃げちゃだめだ

(碓シンジ)

背面 BACK



前面 FRONT

側面 SIDE

関連事項 RELATED INFORMATION

- アダム
- 碓シンジ
- 碓ユイ
- 人類補完計画



アダムとされる光の巨人。そのシルエットは初号機と酷似している。しかし、両機はリスより造られたとも傳われる。

初号機の交戦記録

NERV本部が所有するEVAの中で最も多くの戦闘経験を活かす。テストタイプという本来の役目を果たし、実戦での活動データ収集に大きく貢献した。使徒の殲滅数もEVAの中で最多を誇り、9体もの敵を仕留めている。

第3使徒サキエル戦

初号機の初陣。シンジは満足に動かせず、光の槍で頭部を貫通した活動停止。その直後に暴走。追い詰められたサキエルは初号機と共に自爆するが、同機は無事に生還する。



サキエルの一方刃を攻撃で左腕部を破壊された。

第4使徒シャムシエル戦

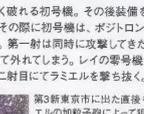
戦場にいたトウジとゲンスケをエンリププラグへ奪取した際、ミサトの撤退命令を聞かずにプログ・ナイフで反撃したシンジ。内蔵電撃リギリで使徒を殲滅した。



相打ちに敗れたが、辛くも勝利を収めた。

第5使徒ラミエル戦

先手を打たれ、戦う間も次々破れる初号機。その後装備を整え、ガシマ作戦が突如される。その際に初号機は、ボジトロスナイバーライフルで敵手を担当。第一射は同時に攻撃されたラミエルの加粒子砲と干渉し合っており、レイの乗機が盾となって加粒子砲を防ぐ間、二対目にてラミエルを撃ち抜く。



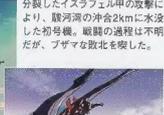
第3新東京市に出た直後後、ラミエルの加粒子砲に二対目して狙い撃ちされた初号機。その衝撃によって、シンジは意識を失ってしまふ。



ボジトロスナイバーライフルは日本中の電力を集め、1億8千万KWのエネルギーをもつてラミエルのA.T.フィールドを貫いた。

第7使徒イスラフェル戦

式号機と初の共同戦線。初戦はバレットライフルで式号機の保護を務めるが、分裂したイスラフェルによって敗北。その後Nゲッターを受けた使徒は、再生のため6日間活動停止する。その間にシンジとアスガは音楽に合わせた攻撃パターンをマスター。再戦後、使徒のコアを二対同時連発攻撃を決め、撃破に成功する。



分裂したイスラフェルの攻撃により、駿河湾の沖合2kmに水没した初号機。戦闘の過程は不明だが、ブズマを敗北を喫した。

第9使徒マトリエル戦

EVA3体のチームプレイにおいて、オフェンスを担当。地上への出口に陣取るマリエルに対して、零号機からバレットライフルを受け取った初号機は、一斉射にて攻撃。



バレットライフルのフルオート射撃で殲滅された。

第10使徒サハキエル戦

自らの身を質量爆弾化して落ちてくるサハキエル。それを受け止めるため、いち早く使徒の落下地点に舞った初号機は、式号機がコアを破壊するまで使徒を支え続ける。



使徒の落下をA.T.フィールドで受け止めた。

第12使徒レリエル戦

レリエルを止めようとした結果、使徒が形成するテラウクツの海に囚われる。その中でシンジの生命が尽きようとする刹那に暴走。使徒を内面から裂いて脱出した。



使徒の本体を破壊し、初号機はそこから脱出した。

第13使徒バルディエル戦

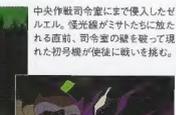
使徒に乗っ取られた3号機に自分と同じ子供が乗っていること知り、攻撃できないシンジ。業を煮やしたゲントウはダミーシステムを起動。圧倒的な力で使徒を殲滅する。



シンジも怪我を被るが、敵を倒す。敵も倒す。

第14使徒ゼルエル戦

中央作戦司令部に侵入したゼルエルからミサトたちを救い、左腕を失いながらもジョフロントまで使徒を引き戻す。有利に戦う初号機だったが活動限界に達してしまい、動けなくなるとコアを軌跡に攻撃される。そのとき、3度目の暴走を引き起こして使徒を蹂躞。捕食によりS機関を取り入れ、無限の活動時間を得た。



中央作戦司令部まで侵入したゼルエル。直前直後がミサトに放たれる直前。司令室の壁を破って現れた初号機が使徒に戦いを挑む。

圧倒的な力で式号機と零号機を倒したゼルエルだが、暴走した初号機に足も手も足すも、成す所もなく倒されてしまふ。

第16使徒アルミサエル戦

零号機の危機において、凍結を解かれ攻撃する。プログ・ナイフでダメージを与えながら、アルミサエルに浸食されて危機に陥る。結局、零号機の自爆により難を逃れる。



レイの乗機が凍結した使徒をA.T.フィールドで凍結させた。

第17使徒タブリス戦

式号機を操り、ターミナルドグマへ向かうタブリス。その後を追い、足止め役の式号機とプログ・ナイフで交戦。打ち倒し、自ら手中に収まったタブリスを握りつぶす。



初号機の手の中へ、自ら倒れたタブリスの頭。

初号機の使用兵器 携行火器①

EVAが使用するスタンダードな火器がバレットライフルである。通常のアサルトライフルとは異なり、弾倉がグリップの後ろに配置されたバブルパップ方式を採用しており、コンパクトで取り回しの利く形状となっている。劣化ウラン弾を電磁銃で撃ち出すが、使徒に対しての効果は十分とは言えない。

使徒を倒すほどの威力は期待できず、主に対人制用として使われている。倒された1体の使徒はマリエルのみ。



第3新東京市にはバレットライフルが収められた武器庫ビルもあり、状況に応じて取り出される仕組みである。

↓バレットライフル

別名バレットガン。機関部即ちの字加減速アサルト銃。銃身には冷却システムが組み込まれているEVAの主力火器。



特記事項

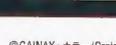
碓シンジの慢心

EVAへの造性は高いものの、使徒との戦いを快く思っていなかったシンジ。その後も使徒の殲滅を重ねることで評価され、「EVA操縦者としての自分」に価値を見出していく。そのためシンジの慢心に固執し、トップを見つけたことから増長を招く。その結果、死の危険に瀕することに。

操縦者に成り立ての頃のシンジは、使徒との戦いに恐怖し、涙を流すことすらあった。



シンジの慢心のアスガを倒したシンジ。彼は慢心ではなく、慢心を抱いてしまう。



©GAINAX・カラー/Project Eva. ©GAINAX・カラー/EVA製作委員会 D06-04

キャラクターシート

Character Sheet

碓ゲンドウ

Sheet

06

GENDOH IKARI A



人類存亡の
鍵を握る



NERV



碓ゲンドウ

GENDOH IKARI

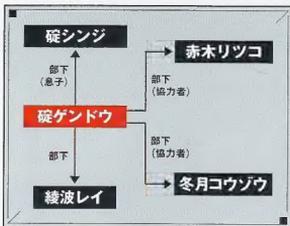
冷徹かつ
寡黙な男

個人情報

名前	碓ゲンドウ
年齢	48歳
国籍	日本
生年月日	A.D.1967/04/29
血液型	A型
所属	NERV/最高司令官

国連直属の特務機関NERVを統率する最高司令官、碓ゲンドウ。彼の経歴はNERV設立に深く関わっており、その活動の足跡はNERV誕生までの歴史そのものといっても過言ではない。2002年、ゲンドウは人工進化研究所（後のゲヒルン）所長に就任し、E計画に着手する。すでにこの頃、彼の活動の裏には国際的秘密組織ゼーレの存在が見え隠れしていた。次いで2004年にはEVA初号機の接触実験を執り行なうも、その最中に妻のユイを喪失。直後に行方不明となるものの1週間程度で復原し、アダム計画及び人類補完計画にも着手していくこととなる。さらには第7世代コンピュータMAGIが完成を見た後、ゲヒルンが特務機関NERVへ移行したことに伴い、同機関の最高司令官に就任する。このように、2015年に至るまで、各計画の推進を任されてきたゲンドウだが、各計画に対する見解の相違からか、ゼーレ及び人類補完委員会とは衝突を繰り返しているようだ。

そうして、ついに15年ぶりの使徒襲来を迎えた際、ゲンドウは3年ぶりに息子のシンジと再会する。しかし、そこで彼はシンジに対し、EVAに搭乗して使徒と戦うことを強要。長い間連絡も取らなかった息子に対して「必要だから呼んだ」と言い、「乗らないならば帰れ」とつき放した。絶対的な自信に満ち溢れたゲンドウの、冷酷で無慈悲な物言い——そして慕然さゆえに、彼の真意を推し量ることは難しい。しかし、結果としてシンジはEVAに乗ることを選択。それが、NERV及び第3新東京市を守ることに繋がったのは紛れもない事実である。

人物関連図

関連事項

- 綾波レイ
- 碓シンジ
- 赤木リツコ
- 冬月コウゾウ
- NERV



EVA零号機操縦者にもかかわらず、国籍、生年月日、血液型をはじめとする個人情報が見消されている謎の多い少女。

表情


一瞥い視線で相手を見透すゲンドウ。NERV最高司令官としての威厳に満ち、部下に冷酷な指示を与える。顔に艶をたくわえた風貌からも、厳格な雰囲気と透かされている。



時に、眼鏡によって表情が隠されることも。眼鏡を外さないことには、意図的に表情を隠すという狙いもあるのかもしれない。



←一瞥をくれるその表情は、他人を軽蔑しているかのようにも見える。ほどほど他人を受け入れる姿を見せたい、ゲンドウらしい表情といえる。



←ゲンドウの冷酷さと意志の強さが窺える。優い表情の横顔。他人にはとんと興味を示すことがない彼は、実の息子と5年ぶりに再会した際にも、その優い表情を崩すことはなかった。



シンジの暴走を止めるため、エントリープラグ内のL.C.I. 運度を上昇させるよう指示するゲンドウ。その表情には怒りが見受けられる。

制服


←立ち振るゲンドウは背筋がまっすぐ伸びており、非常に姿勢が良い。彼より大きく見えるその姿勢も、威圧的な雰囲気を生んでいる原因のひとつだろう。



→ジャケットの内側には、ハイネックシャツを着用している。その軽やかな赤がざし色として際立つ。意外と派手な色を好む傾向もあるようだ。

正面


一機縦性を重視した、繊細のたっぷりとしたジャケットと、一般的なスラックス。ゲンドウは、常にこのNERV仕様のスーツに身を包んでいる。

側面

碓ゲンドウ

という存在



↑あまり見ることができない、ジャケットを脱いだ姿のゲンドウ。その手には常に白い手袋を装着しているが、これは職務上の義務によるものではなく、手に負った火傷を隠すための装用のようだ。

↑最高司令官という立場のため常に冷静で、あまり感情を表に出さないゲンドウ。だが、時折折れない表情を見せることもある。ただ、大きく表情を動かすことは非常に少ないため、彼の感情を読みとることは困難を極める。

NERV最高司令官を務めると同時に、人類補完計画責任者として計画を遂行するゲンドウ。その全貌を知る者は一握りであり、知り得ない者には猜疑心の芽を植え付けていく計画——、ゲンドウはそういった性質の計画実現を最優先事項とし、それ以外の事務柄について取ることがない。実の息子はEVA初号機の専属操縦者として、自らを慕う赤木親子は協力者として、その他の人間も計画遂行上の持ちこまとして利用する——、冷静沈着にことを進めるその姿が職務に忠実であるが故に、彼には「非情な人物」というイメージが付きまとう。しかし、その行為を俯瞰した時「計画実現のためには形振り構う余裕がない」という彼の、逼迫した状況を鑑みることができる。

ちなみに、ゲンドウが本格的に人類補完計画の遂行に着手したのは、妻であるユイを失った後のことだ。さらに、彼が遂行する計画のシナリオは、ゼーレが用意したものとは異なると言われる。彼の真の目的は、計画の実現により「愛した妻に再び出逢う」とことも推察できるが、その真相は不明である。



「非情な人物」と目されているゲンドウ。微笑することもあるが、それが必ずしも好意の表われとは言い切れない。



操縦選考者たちの到着を傍見て、自らも力仕事に従事するゲンドウ。廊下において、部下たちを牽引する行動力も持ち合わせている。

特務機関NERVの最高司令官であり、数々の機密計画の指揮も執るゲンドウ。その多忙さ故にNERV本部に不在のことも多いが、執務を疎かにすることは決してない。のみならず、NERV本部の電力供給がほぼ停止している状態で使徒が襲来した際は、作業現場で手動によるEVAの起動準備の指揮を執った。また、第10使徒襲来時、ほとんど勝算のない作戦を成功させたシンジに、珍しく労いの言葉をかけてもいる。必要とあれば現場に向出くことも厭わず、任務を果たした部下に対しては激励する——、そういったゲンドウの姿勢は、人類最後の若たるNERVの統率者にふさわしいものといえるだろう。

NERV最高司令官としての姿勢

冷徹

な性格の影響



久しぶりに会った息子に、即座に言葉を命じるゲンドウ。危急の状況のため、挨拶するらしくに変わっていない。



操縦者が163号機の機軸を拒むシンジ。ゲンドウは躊躇することなく、即座にダメージシステムの起動を命じる。

最高司令官として卓越した統率力を見せる一方、目的のためならば手段を選ばない性質のゲンドウ。瞬時に下される冷徹な判断は、時に周囲を戸惑わせることもある。だが、使徒を倒さなければ人類全体が危機に晒されることを考えれば、その判断は妥当なものである。NERV最高司令官という地位にある彼が迷いを見せることは、人類滅亡に繋がりうるから。故に、常人ならば躊躇しかねない局面でも、彼は決して迷うことはない。息子であろうと自分を慕う人間であろうと、迷わず利用する——その点が彼を冷徹に見せている所以であるが、それらはあくまで必要に迫られたための行為ともいえるだろう。

綾波レイ との関係



レイに対し、真の姿を見せるゲンドウ。その表情は明らかに最高司令官のそれとは異なるものだ。



大きく狭まった表情を見せるゲンドウ。対象がレイの場合のみは、このように感情を隠すことができないようだ。

→特徴的な髪や瞳の色を除くと、外見はゲンドウの妻、碓ユイに酷似しているという綾波レイ。母女と称する際、ゲンドウはそこにユイの面影を重ねているのかもしれない。



→EVA零号機の操縦時に着用することも多い。ただ、本人は信頼を最優先する発想が強く、信頼にも優ることはない。

常に冷静沈着な態度を崩すことのないゲンドウだが、最初のEVA操縦適格者である綾波レイに対しては、特別視をするような特異な態度を見せている。その親密な態度には、実の息子たるシンジが嫉妬にも似た感情を抱いてしまうほどである。零号機の起動実験失敗の際には、その身の危険を顧みることなく、自らの手でレイを救出。第14使徒襲来時、レイが自爆による使徒殲滅を目撃した際も、狼狽した表情で彼女の名を叫んでいる。その一方で、シンジが初号機に乗ることを拒んだ際は重傷のレイに対して出撃を命令し、彼女もそれに従った。一方、レイもまた彼には他人に見せることのない表情を見せることが多く、絶対的な信頼を寄せている様が見える。

なお、レイの個人情報の一部が抹消されており、その正確な出自は不明である。ただし、その外見は亡き碓ユイに酷似しており、生前の知己であった赤木ナオコすら、一見してユイとの関係を疑っていた。また、NERV本部のターミナルドグマにおいては、複数のレイ(クローンと推察されるが、詳細は不明)が目撃されている。さらにレイは、人類補完計画の鍵を握る存在とも目されており、ゲンドウが彼女を特別視するのは当然とも言える。ちなみにゲンドウは、ユイが妊娠していた頃、息子ならばシンジ、娘ならばレイと名づけると口にしていた。これらの事実を考え合わせると、レイに対するゲンドウの態度は妻、あるいは娘に対するものに近いと考えられる。



3年ぶりに妻の墓参りに訪れた際、シンジと言葉を交わしたゲンドウ。静しく、父親としての一面を窺わせた。

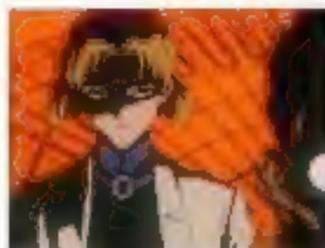


もうEVAに乗らないと言うシンジに、去望したと告げるゲンドウ。別に、それまでは期待していたとも思われる。

息子のシンジに対し、ゲンドウは酷く冷たい態度を取る。シンジはそんな父に反発しながらもEVAに搭乗するが、そこには多分に「褒められたい」という想いが込められている。しかし、ゲンドウの態度にほとんど変化はなく、自らの気持ちを裏切られ続けるシンジは、エディプスコンプレックス的な愛憎を募らせていく。本来ならばゲンドウが取るべき行動は、亡くなった妻の分まで息子のシンジに愛情をかけ、見守ることであろう。しかし現実には、ゲンドウはシンジを突き放し続けている。不器用ゆえにシンジを傷つけることを恐れる「愛情表現の裏返し」とも考えられるが、その真意は定かではない。

碓シンジ との関係

赤木リツコ との関係



レイのみを特別扱いするゲンドウに嫉妬を面持ちる浮かべるリツコだが、ゲンドウはそれも気にする様子もない。



敵々利用し慕った女性を相手に、ゲンドウが最終に向けた言葉は、どのようなものだったのだろうか——?

NERV技術開発部に所属し、E計画責任者及びMAGIの管理責任者を務める赤木リツコ。NERVの中核に関わる彼女の職務上、ゲンドウとは共に行動することが多い。ゲンドウは部下として、彼女のことをそれなりに信頼しているように見受けられる。

しかし、それらはあくまで表面上の関係である。ゲンドウはリツコの能力を利用するべく、肉体的な関係を結んでいた。だが、後々になってリツコ自身がその真意に気付き、翻意することとなる。ちなみにゲンドウは、リツコの母であるナオコとも肉体関係を持っていた。リツコはその事実を承知した上でなお、ゲンドウとの関係を結んでいたようだ。

防護服 (NERV仕様)

NERVの用いる化学防護服。気密型で、内蔵された自給式呼吸器により、着用者に呼吸用の空気を送っているものと思われる。そのため高レベルの汚染区域にも踏み込むことが可能。また、不織布を用いた緻密な繊維構造により、有害物質付着による表面汚染や外気による内部汚染を防ぐ。材質は不明だが、化学物質に対して浸透(素材の隙間を非分子レベルで通過すること)や透過(気体状態で内部に通過すること)を許さない高いバリア性を備えた素材が使用されているものと推測される。



→ 1 髪をフードでまとの、密閉ヘルメットを装着。防護手袋は袖の器具で装着するため、ケミカルテープで密着する必要はない。



硬シンジ強制排出



EVA初号機に立てこもった硬シンジは、エントリープラグをこじ開けられて強制に排出された。これは作業員に当たった人員は防護服を着用している。これは、繊細な生体部品で構成されたEVAを汚染しないための配慮とも考えられる。また、機体回収班にとって便体の体液などは未知のものであり、有害な可能性があるため着用するは当然だが、EVAの部品にも有害物質が含まれている可能性も捨て切れない。

放射能防護服

放射性物質から身を守るための防護服。高レベル汚染用の完全気密型で、身体にフィットした機動性の高いデザインである。一体成形の防護服に、フェイスカバー & バイザーをジョイントして着用。背面にはコンパクトにまとめられた自給式呼吸器を持つ。また、耐熱性にも優れ、放射線防護のための遮蔽体を組み込んだ素材を用いているものと考えられる。



J.A.完成放射能記念会の行なわれたトリープには、放射能防護服が用意されていた。スーツを脱ぎ捨てたミサトは、肌露の上から使用する。



初号機の手からJ.A.に乗り移ったミサト。アクロバティックな動きを阻害しない作り。防護服である。

かなりの高温となっていたJ.A.内部。その熱に耐え、人力で制御棒を押し戻そうとするミサト。



特記事項

J.A.暴走事故

日本核化学工業共同体の産物と称する巨大人型兵器J.A.。その完成披露記念会において仕組まれた事故は起こる。暴動演とすりアタマ(獅子)の内圧が突如上昇。J.A.は制御不能となってしまう。炉心の制御棒を止めようとするミサトは、初号機の手を借りてJ.A.内部へと乗り込む。しかし、停止させるためのアクセスロードは何者かによって変更されていた。あわや炉心融解という寸前、プログラムは正常に戻り危険は去る。用意された奇跡を見たミサトは、それが自らの所属する組織の驕慢だと悟るのだった。



- 機体回収班
- 硬シンジ強制排出
- J.A.停止作戦
- NERV



EVAの爆発現場に関することが多く、機体回収班。場合によってはホールドアップも同じし、直接指示を出すことがある。

時代の変化に取り残された 太平洋艦隊

を指揮、統率する海の男



オーバー・ザ・ レインボウ艦長 副長

CAPTAIN AND COMMANDER OF 'OVER THE RAINBOW'

世界各方面に割り振られた国連軍の兵力のうち、太平洋を管轄する大艦隊「国連軍太平洋艦隊」を統率するのが、旗艦である航空母艦オーバー・ザ・レインボウを駆る艦長、副長の2名である。使徒の脅威の前に通常兵力が形骸化した中で、太平洋艦隊といえどもその例外たり得なかった。しかし、第8使徒の襲来という危機的状況下において、彼らはEVA式号機との共同作戦を展開。迫り来る使徒を見事に殲滅することで、海の男の誇りを見せた。



太平洋艦隊に与えられた任務は、ドイツのヴァルヘルムスハーフェン港から新横須賀港までのEVA式機輪送及び護衛であった。大艦隊を率いていたオーバー・ザ・レインボウ艦長及び副長にとって、この任務は重立したいものであり、特に艦長は長年に渡り培ってきた「海の男」としての矜持をひどく傷つけられたものと推察される。その怒りの矛先は、万に備えEVAの非常用電源ソケットを空輸してきた葛城ミサトに向けられることとなった。

とはいえ、使徒の脅威とそれに対抗しうるEVAの有用性を認めれば、その態度を軟化させ、最終的にはミサトの立案した作戦への協力も惜しまなかった。そこには、第3使徒を迎え撃った第2方面軍の幹部たちは異なる、常に現場に身を置いてきた男たちの柔軟性と、実質的な勝利への執念があった。



「生き残った戦艦2隻を自沈させて使徒の口腹内に送り込み、電流砲撃後、さらに自衛を敢行する」といつ、ミサトの強引な作戦を了承した艦長たち。その凄ましい決断が作戦を成功に導いたといっても過言ではない。

追加報告

太平洋艦隊の編成について

太平洋上をその管轄とする国連太平洋艦隊は、米、ロシア、日本といった国連加盟国保有の艦艇によって編成された、連成大艦隊である。

旗艦である米国のオーバー・ザ・レインボウ(ニミッツ級航空母艦)、「コナチッド・ステイツ」(旧名)を筆頭に、ニミッツ級航空母艦2隻、旧ソ連のアドミラル・クラスネオゾフ級、キエフ級航空母艦(正式には艦載航空洋艦)1隻ずつ、さらに米国のアイオワ級戦艦2隻、詳細不明戦艦2隻と多くの巡洋艦、駆逐艦、潜水艦、フリゲート艦等が同行しており、米海軍情報ながら、EVA式機輪送及び護衛には少なくとも30隻以上の艦隊が同行していた可能性が高い。

しかし、記録によれば第6使徒との戦闘において国連海軍は全艦隊の9分1を失ったとされており、使徒を撃滅したとはいえ、その被害状況は甚大なものだった。以降、右方面で海上戦力の再構成が行われたのはもちろん、たとえれば海上戦力自体の有用性に對しても一考されたものと推察される。



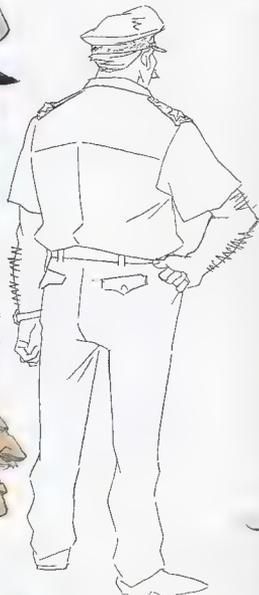
相田ケンタウは空母海軍、第4の大艦隊と敵艦の艦を上げながら、当該艦以外の艦も存在した。実際には未曾有の大艦隊だったと推察される。

- EVA式号機
- 国連
- NERV



相立及び試験がドイツで行われていたEVAのロケット・モジュール、専属操縦者は技師・アカカッパレ。

艦長、副長



↓ 老練の軍人らしく厳しい表情が多く、隠れが鋭い艦長。その先入観は年齢を感じさせるものの、あのミサトに首肯を仕掛けるなど、またまた理後といった感がある。



↑ 太平洋艦隊の実質的な指揮を執っていた、社年から老年といった風貌。新参者である同国連の特務機関NERVに準拠的なところもあるが、有事にはごたわりを捨て、最善の策を提案する柔軟性も持ち合わせていた。



↑ 艦長とは異なり、帽子を脱ぐとその顔面が大きく変わる副長。しかし、艦長と同様にNERVに対して不満を持っているらしく、ミサトに対する愛動も感じられることが多い。

← 艦長の情に立つ副長。その職務のためか、感情の激しい艦長と対照的な印象で、その表情も繊細とみられる。

特記事項

国連軍とNERVの関係

国連軍と特務機関NERVは、共に国連の下部組織である。ただし、表面上は協力関係にあるものの、その組織間の関係は必ずしも良好ではない。セカンドインパクト以降の混沌とした世界を支えてきたという自負があるためか、国連軍の人々は、超法規的な新生組織NERVの存在を快く思っていない場合が多い。

太平洋艦隊という大艦隊を率いる艦長、副長もその例にもれず、その言葉の強さや権威、あるいは侮蔑的な感情が見え隠れすることが多い。彼らの場合、使徒襲来時にはミサトの作戦、協力する状況に沿った対応を見せたが、そういったケースは非常に稀であったと思われる。



マイクを取り合う艦長とミサト。その様子にはミサトでもあるものの、潔然として、対話艦隊の旨を告げている。

EVAの非常用電源ソケットを空輸してきたヘリを一撃した艦長は、「採具のソケットを運んで来た。ミサトは、ガキの癪いが、と皮肉を吐きつけている。

タイムラインシート

Timeline Sheet

ヤマアラシのジレンマ

Sheet

06

EDGEHOG'S DILEMMA

A.D.2015

01

ミサト、シンジの家に気づく

シンジの部屋はもぬけの殻になっていた。ある雨の朝、目覚ましに起こされたミサトは浮かぬ顔で洗面台へと向かった。先日から四層を出めたシンジの様子に気がかかっていたのだ。二度目の挨拶との取置のあと、シンジは部屋へ引きこもったまま、もう5日も学校をさぼり続けている。悩んだ末にミサトはフスマ越しに声をかけてみるが、部屋の中は静まり返っている。しびれを切らした彼女がフスマを開けてみると、そこには空っぽの部屋があるだけだった。



「あいつ……まだほんたうに帰るつもりか。もし戻らなければ、シンジに配するミサトは、驚しいし、辛い。辛くて涙が止まらなくていい。」



ミサトが気づいた時には、IDカードと書き置きの手紙だけを投げてシンジはどこかへ姿を消してしまっていた。「家とか……ムリもないわね」ミサトはどこかかっていったような面持ちで小さくつぶやく。

A.D.2015

●第3新東京市～大浦谷

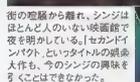
04

シンジ、映画館で一夜を明かす

桃源台の駅で降りたシンジはオールナイトの映画館で夜を過ごしたあと、再び町をうろつめはじめた。人気がない第3新東京市の道を偶然と歩いていくシンジ、だが、ふいにその足が止まった。やがて大きく響くセミの声と共に、黒團のビル群が自身へ向けて迫ってくるように思えたのだ。恐怖に駆られたシンジは、第3新東京市から逃げようとするのかのようにやくもにも走り出す。行先を確認しないままにバスに乗りこんだ彼は、いつしか緑が広がる田園地帯にたどりついていた。



白昼夢の世界に陥りかけたシンジは、立ち立ってあれももう一歩を離れるが、行く先があるはずもない。



緑の田の広がる小高い地帯にたどりついたシンジは、眼下には第3新東京市の街並みが広がっていた。

街の窓から漏れる、シンジはほとんど人のいない映画館で夜を明かしている。「セカンドインパクト」というタイトルの映画大作も、今のシンジの興味をそくここはできなかった。

2015年

ミサト、シンジの家に気づく

ミサト、シンジの行方を気にする

シンジの不在を告げられるトウジとケンスケ、シンジの様子を見るため、ミサトの部屋を訪問

新世紀年表

REBUILD OF EVANGELION
TIMELINEヤマアラシのジレンマ
EDGEHOG'S DILEMMA

「あいつ……まだほんたうに帰るつもりか。もし戻らなければ、シンジに配するミサトは、驚しいし、辛い。辛くて涙が止まらなくていい。」

「白昼夢の世界に陥りかけたシンジは、立ち立ってあれももう一歩を離れるが、行く先があるはずもない。」

「緑の田の広がる小高い地帯にたどりついたシンジは、眼下には第3新東京市の街並みが広がっていた。」

「街の窓から漏れる、シンジはほとんど人のいない映画館で夜を明かしている。」

「セカンドインパクト」というタイトルの映画大作も、今のシンジの興味をそくここはできなかった。

●第3新東京市

03

シンジ、市内をさまよう

ミサトのマンションを飛び出したものの、行くあてのないシンジは街を巡る環状線に乗っていた。目の前を車たちが次々と美陸していくなか、ひとりぼんやりとうつむいたまま電車の座席に座るシンジ。やがて夜となり、電車が回送になるまで彼はそこに座り続けていた。



シンジは第7環状線で街をワルグルと回っていた。



電車を降りざるを得なくなったシンジは「帰らなくちゃ」とボンッとつぶやく。

02

トウジとケンスケ、ミサトの部屋を訪問する

級友たちはシンジのことを気にかけていた

突然のインターフォンの音にシンジが満ってきたかと思わすミサトだったが、そこにいたのはシンジのクラスメイト、美原トウジと相原ケンスケだった。彼らはずっと学校を休んでいる



本編の外伝イベント「A.S. REBELLION」

トウジたちを安心させようとするミサトは素直のことを伏せ、シンジはNERVの訓練施設にいると答える。



トウジとケンスケはシンジの部屋を訪問し、その理由を聞いてみる。シンジは「学校を休んでいる」と答える。



シンジは「学校を休んでいる」と答える。

●NERV本部

A.D.2015

05

ミサト、リツコに相談する

NERVに出動したミサトは、シンジが家を出たことをリツコに告げる。14歳の少年に人間の存亡をゆだねるのは酷なことだが自分たちはそうせざるを得ない。リツコは冷静にそう述べる。一方のミサトは、シンジが戻るつもりがないのなら、その方がいいのかもしれないと考えはじめていた。



ツイの検査をきつつ、シンジのことを話すふたり。

ミサトはシンジの気持ちをうまく伝えることができます。ひとり思い悩んでいた。



04

ミサト、シンジとの口論を回想する

不明瞭なシンジの態度にミサトはいらつく

リツコと話しながら、ミサトはシンジとの会話を思い浮かべていた。先日の使徒との戦闘のあと、ミサトは彼になぜ命を無視したのか訊ねたのだが、シンジはなにを言っても無気力にならず



シンジは命無視の言葉をミサトに聞かされた。

シンジの態度に怒ったミサトは、いいかげんな気持ちでEVAに乗っていたら死ぬことになるかと諦め始める。



自分以外では「命無視」を言わない。シンジの態度は、いいかげんな態度だ。ミサトは、シンジの態度を、いいかげんな態度だと感じる。



シンジは「命無視」を言わない。シンジの態度は、いいかげんな態度だ。ミサトは、シンジの態度を、いいかげんな態度だと感じる。

ミサト、
シンジとの口論を回想する

ミサト、
リツコに相談する

その足で大涌谷に向かう

シンジ、
映画館で一夜を明かす

シンジ、
第3新東京市内をさまよう

A.D.2015

●大満谷

07

レンジ、ケンスケと遭遇

シンジはケンスケに親しみを覚える
夕暮れの山中をあてなく歩いていたシンジは、突然、何者かに声をかけられた。近くの野原でケンスケが戦争ごっこをしていたのだ。シンジをテントへ招いたケンスケは、トウジが敵ったことを反省しているとしンジに伝える。元気のないシンジを気にかけてか、気さくにあれこれ語りかけるケンスケ。それはシンジにとって、思いがけないやすらぎの時間となった。

→夏学期試験と称して
軍服を脱ぎ回っていた
ケンスケは迷彩服に
身を包んでいた。



夏期の戦争ごっこを
していたケンスケは、何
のでもないようなシンジを
平和に誘う。



ケンスケが話した「彼もた
だ自分と同じく戦争ごっこ
をやってるんだ」という
言葉が、シンジの心に響
き、心を開いていく。

「戦争ごっこ」は、シンジ
にとって、初めての経験
だった。心を開いていく
シンジは、ケンスケと
仲良しになる。



A.D.2015

●大満谷

08

シンジ、保安課報部に拘束される

翌朝、テントへ近づくと
の警戒に気づいたケンスケ
が外へ出てみると、NERV
の保安課報部員が四方を
囲んでいた。彼らはシンジ
をNERV本部へ運送する
ためにやってくるのだ。抵
抗もせず、おとなしく男
たちについていくシンジを、
ケンスケは成す術もなく見
送るしかなかった。



姿を隠わした軍服
の男によってシンジ
は運送された。



あとから一連の話を
聞いたトウジは、それ
を黙って見てたの
が、ケンスケを驚かす。

A.D.2015

17

シンジ、トウジを救る

別れ際、少年たちは和解した

シンジを助けたことを後悔していたトウジは、自分も助ってくれと言いだした。しりぞみするシンジだったが、トウジの意志の固さに、その顔に拳を叩きつける。わだかまりを解き、笑い合う少年たち。トウジは、もしも術を離れるシンジを悪く言う者がいたら、助けてやるよとまで言ってくれた。街から逃げ出す自分にかけていた温かい言葉に、シンジはしばしば果敢となる。

→とにかくシンジに謝罪か
いという真剣な思いがトウジ
を振り回していた。



手加減なしで殴れという
トウジに、シンジは思い
切り拳を振った。



トウジの言葉を知ってからは
、トウジの言葉を聞いては
、トウジの言葉を聞いては
、トウジの言葉を聞いては

自分自身で、トウジの
言葉を聞いては、トウジ
の言葉を聞いては、トウジ
の言葉を聞いては

17

シンジ、トウジたちにあやまる

訓練部員に連れられて
駅への階段を登る途中で、
シンジはふいに身を翻した。
「誰だ!」彼は昇座で、
膝胸で……するく、弱虫
……」涙声のシンジを男
たちが強引に引いて行く。
トウジとケンスケは、言葉
をなくして、ただそのうし
ろ姿を見守っていた。



昇座の時が近づ
き、シンジはホーム
へ向かう。



自分の強弱さに気づ
いたシンジは、トウ
ジたちへ叫びかける
はいらなかった。

シンジ、
大満谷でケンスケと遭遇
ケンスケのテントで
一夜を過ごす

NERV保安課報部、
シンジの所在を確認

シンジ、
NERV保安課報部に
拘束される

シンジ、ミサトと面会

互いの感情が
すれ違ったまま
口論となる

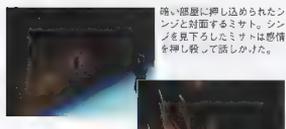
ゲンドウ、
計画の変更を示唆

初号機のデータを
レイに書き換えるよう
指示する

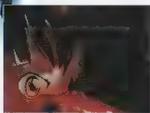
A.D.2015

09 シンジ、ミサトと面会する

拘束されたシンジの下へミサトがやって来た。無断で失脚したことは替めずに今後もEVAに乗るつもりはあるのかとだけ、静かに問いかけるミサト。だがやはり自分自身の意思を述べようとするシンジに、ミサトは激憤を抑えきれずに叫ぶ。「人のことなんか関係ないでしよう! 嫌ならここら出て行きなさい!」音を立ててドアが閉まり、室内にはシンジだけが取り残された。



シンジを怒り叩いてミサトは退出。残されたシンジは彼女に見送られたように感じ、言葉もなかった。



NERV本部

10 ゲンドウの計画変更を示唆

シンジが第3新東京市を離れることになったと知ったゲンドウは、初号機のデータを被流レイに書き換えるようリツコに指示した。その言葉に、背後にいるレイの様子をちらりと窺うリツコ。「マルドゥック機関の報告によるとフォーステルドロンはまだ見つからない」その言葉を続けるゲンドウに、「パイロットの補充はきかないということですか?」と、リツコはどこか意味ありげに答えた。



未だ癒えていないレイは自分に聞かぬ顔を見せられても、何の意味も立いかのように向を向てたずんでいた。

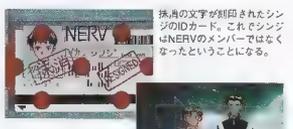
NERV本部を移動するゲンドウ、リツコ、被流レイ。その最中、ゲンドウは再びつ動かざるに計画の変更を告げた。



A.D.2015

11 シンジ、NERVより登壇拜辞

EVAのパイロットではなくなったシンジは、NERVから籍を抹消された。迎えに来た諜報員の一人に最後の挨拶をしたいとミサトの居場所を訪ねるシンジ。だが、もう君はNERVの人間ではないとわづらわられてしまう。そのまま諜報員に駅へと連れて行かれるシンジだったが、駅には意外な人が待っていた。トウジとゲンスケが、勸をきかせて駅に駆けつけてくれたのだ。



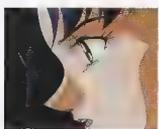
シンジが第3新東京市を離れる日から経過したトウジとゲンスケのふたりは、駅までシンジを見送りに来ていた。

抹消の文字が印されたシンジのIDカード。これではシンジはNERVのメンバーではなくなったということになる。



14 ミサト、新箱根湯本駅に向かう

NERV本部では、リツコがミサトにこれ以上よかったのかと問いかけていた。ふと以前にリツコから言われた言葉を思い出すミサト。身を寄せせるほど相手を傷つけるヤマアラシのジレンマ——シンジもまた、互いを傷つけるような言い方でしか、自分の気持ちを伝えられなかったのだ。そう思い至ったミサトは急いで駅へ向かうが……。



シンジが街を出る時間が刻一刻と近づく。ミサトは離れ離れで書きこんでいた。

「ああいう言い方でしか自分の気持ちを伝えられないんだわ。やっとミサトはシンジの顔に近づいた。」

シンジ、
NERVより登壇を
抹消される

シンジ、
新箱根湯本駅に
移送される

15 シンジ、ミサトと和解除

シンジは自らの意志でEVAに乗り続けることを選ぶ。シンジが乗る電車が駅に着いた。だが開かれたドアの前で、シンジはミサトが優しく彼を励ましてくれたことを思い出していた。一瞬、ミサトは車を飛ばして駅に駆けつけるが、彼女が着いた時にはすでに電車は駅を離れていた。間に合わなかったのかとため息をつくミサト。だが、すぐにホームにシンジが立っていることに気づいた。彼は結局、電車に乗らなかったのだ。「た……ただいま! ためらぬがちな笑顔で、そんな言葉を告げるシンジに、ミサトもまた笑顔で「おかえりなさい」と答えたのだった。



トウジたちの前に急停車する1台の車。降り立ったミサトは、シンジは意外な笑顔で「おかえりなさい」と答えたのが……。



言葉の響く目撃の下で、シンジは「おかえりなさい」と答えた。めいめい、おかしな感じがする。

たまたま、おかしな感じがする。おかしな感じがする。おかしな感じがする。

シンジ、ミサトと和解除

ミサト、
新箱根湯本駅に向かう

シンジ、
トウジとゲンスケに
あやまる

シンジ、
トウジを殴る

シンジ、
トウジとゲンスケに再会

タクティクスシート

actics Sheet

第6使徒ガギエル遭遇戦

Sheet

09

HE SIXTH ANGEL GAGHIEL ENCOUNTER BATTLE

Illustration by Tak.Ysk.io



第3新東京市を遙く離れた海上での襲撃。水中という特殊環境に特化した第6使徒は、国連軍の進歩兵装はあろうが、エヴァンゲリオンさえも闘争しん。

初めの海上での戦闘と、使徒の目標

使徒の形態、思考の多様性と

エヴァンゲリオンの問題を明らかにした偶発戦闘

TACTICS SHEET

ドイツからEVA式号機を移送中の船団に対する第6使徒——後にガギエルと呼称される——による襲撃と、それ以降の防衛、迎撃戦は、これまでの対使徒戦と比較して、様々な点で異質な戦闘であった。

つまり、この戦闘は「使徒側の奇襲」という状況だけではなく、第3新東京市とは無縁の場所での戦闘が行なわれた最初の例だったのである。これにより、使徒が単に「第3新東京市」という地理上の目標を自動的に目指しているのではないことが推測される。使徒、もしくは使徒の上位指揮システムが、ある程度の範囲をカバーする索敵能力を備え、その情報を元に観測対象物の中からHUV(高価値目標)を選ぶ能力を備えている事が考えられる。第5使徒との戦闘でも明らかになったように、EVAは第3新東京市というバックアップの下にあって初めてその真価を発揮できる。しかし、今回の使徒の行動模式から、使

徒は必ずしも第3新東京市の制圧圏内に現れるのではない、という事実が明らかになったのである。

同時に第6使徒との戦闘は、特殊環境下におけるEVA単体戦闘の問題点を露わにした。その問題点とは、EVAは汎用兵器であるが故に、特殊な環境下ではオプションの装備が必要であり、それがない場合はほぼ無力であるということである。実際、第6使徒戦に投入されたEVA式号機は、「水中」という特殊環境において、運動性や機動力だけではなく、攻撃力すら喪失(B型装備の標準兵装であるプログレッズ・ナイフは「斬る」為の兵装であり、攻撃時の反作用を受け止める「足場」がないとその威力は大幅に減じる)するという、非常事態に陥った。

この状況に対し、同行していた葛城一尉の機転と現場での判断により、NERVに指揮権が移譲された。そして、直接攻撃能力しか持たない使徒の特性を利用し、辛うじて勝利を収めることに成功したが(使徒が遠距離攻撃能力を持ち、ヒットアンドアウェイ戦法を採っていた場合、一方的な「虐殺」になっ

たであろう)、今後には大きな課題を残すこととなった。

また、使徒の目標がEVA式号機であるという前提に立つと、使徒は「EVA=HUV」と評価したと考えられる。これ以外にも、汎用戦闘兵器であるEVAが、第3新東京市という強力なバックアップ下で、戦力として整備される前に撃破しようという、高度な思考の下に行動した、ということも考えられる。

実際に、この戦闘で基本装備であるB型装備で迎撃を行なったEVA式号機は、かなりの苦戦を強いられ、以降の対使徒戦に重大な戦果を残すこととなった。また、第6使徒の目標はEVAではなかったという情報もあるが、これについての真偽は明らかではない。

RELATED MATTERS

第6使徒ガギエル
エヴァンゲリオン式号機
艦首:アスカラングー
国連軍



EVA式号機を輸送中の船団を襲った使徒は、水中での活動に特化した形態を持つ。



人類補完委員会と特務機関NERVの会合の場は、互いの意見交換の場であり、報告の場でもある。通常はNERV最高司令官のゲンドウと副司令官の冬月コウジが召集され、5名の委員会メンバーと質疑応答を行なう。

人類補完委員会

組織の発足とその概要

時に西暦2004年。箱根にあるゲヒルン地下第2実験場において、ある実験が開始された。E計画に基づいて創造された汎用人型決戦兵器・人造人間エヴァンゲリオン——その初号機の起動実験である。ゲヒルンの研究者たちが見守る中で起動実験が開始され、その開発に携わった生物学者、碓ユイが自ら初号機に搭乗した。しかし彼女は、突如として制御不能に陥った初号機に取り込まれてしまう。妻を亡くした失意のため、同じくE計画を推進していた碓ゲンドウは、しばらくの間、行方をくらませる。その間の葛藤は本人のみが知るところだが、やがて帰還した彼は、ある計画の構想に着手——、その計画こそが「人類補完計画」である。

この人類補完計画に着目し、計画の遂行を決断した秘密結社ゼーレはその強大な社会影響力を用い、当時すでに世界の中心的存在となっていた国連内に、人類補完計画実行の指導、監督を主たる任務とする秘密委員会「人類補完委員会」を発足させる。さらに委員会には、第7世代スーパーコンピュータ

MAGIの完成と同時に、ゲンドウが所長を務めるゲヒルンを解体。同じく国連の特務機関であるNERVを設立し、その最高司令官にゲンドウを据える。

人類補完委員会はNERVとの繋がりを色濃くし、表向きにはその予算承認権や、EVAの起動要請権を持つ組織へと変貌する。しかし、その活動の主眼はあくまで人類補完計画の遂行であることに変わりはない。実行部隊であるNERVを得た人類補完委員会は、国連ではなく、実質的な上位組織であるゼーレの指示の下、人類補完計画成就のために邁進していくこととなる。

なお、委員会の言葉借りれば、人類補完計画は使徒殲滅よりも重要であり、人類唯一の希望とされている。その内容の詳細は明らかにされておらず、発案者であるゲンドウ（及び彼を補佐する冬月）、人類補完計画に着目したゼーレのメンバーのみがその全容を知る者と目される。しかし、その最終的な解釈の段階で、ゲンドウらとゼーレのメンバーに相違が発生。ゲンドウらとゼーレ（表向きには人類補完委員会）は、結果的に袂を分かつこととなった。



人類補完計画
キール・ロレンツ
に関連

NERV
人類補完計画
NERV最高司令官、
ゲンドウが遂行する
計画のひとつ「人類
唯一の希望」とも言
われているが、詳細は
謎に包まれている。

人類補完計画進行下における 委員会の存在意義

アダムと呼ばれる第1使徒の復元、再生を目的とする「アダム計画」、EVAの創造を目的とする「E計画」などと並び、NERV（主にゲンドウ、冬月）によって進められている一大計画「人類補完計画」。その詳細な内容は不明だが、一説には「人類を完璧な存在にするための計画」とも言われている。

人類補完委員会は「裏死海文書」の記述に基づき、その計画遂行の指導、監督を担っていたとされている。ただし、委員会自体には人類補完計画を遂行する能力はなかった。また、そのシナリオの詳細についても、常にゲンドウに対して進行状況の確認を行っていたキール（ゼーレ）においても、主要メンバーのひとりだったものと目されている。完全に把握していなかったものと推察される。これらの事実から、人類補完委員会はあくまで国連内部にある、ゼーレの「窓口」的な組織であると考えるのが妥当であろう。ちなみに、ゲンドウとゼーレでは、「補完」の解釈が若干異なっていたと言われている。そのため、計画が最終段階に近づくと、ゲンドウと人類補完委員会（及びゼーレ）との意識の相違が深まっていく結果となっている。



一般的には活動内容の詳細が不明瞭なため、同一視されやすい人類補完委員会とゼーレ。大抵はゼーレであり、その組織力は冬月に「ゼーレ」より出する面額だと驚かされるほど強大だ。

特記事項

人類補完委員会とNERV

NERVの上部組織として活動状況などを監視する一方「人類補完計画」を推進するという側面も持つ人類補完委員会。実際に計画を遂行するNERVとは主従関係にあると見られるが、毎週に持ち代役を立てる」など、NERVにもある程度の権力は認められている。

ちなみにゲンドウについては、時折、上部組織及び組織から持ち合わせていない様子を見せる。それ故に、組織間の対立時間同様の殺意と共に大きくなっていく。



委員会の家系上層に対して「切り札的なものは、手元にはない」という発言をする。さらには何れも彼らと重なりあうことがない。委員会に対しては、その権威は絶大なものがある。

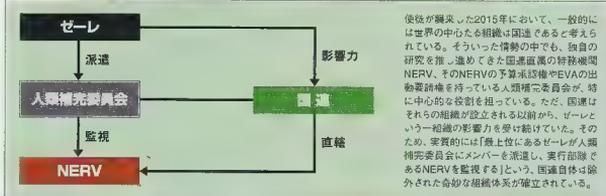


人類補完委員会は必要に応じてNERVの人員に専門を要求できるが、代役が認められる場合もある。第12使徒を捕獲、シナリオの最終要求された時は、冬月が代役を務めている。

人類補完委員会の 組織概要

セカンドインパクト後の世界において、人類再興の手段となった国連。しかし、2015年に使徒が襲来したことにより、各関連組織の発言力に大きな変化が生じる。特に汎用人型汎用兵器と、敵と人間エヴァンゲリオンを保有し、使徒に対抗する唯一の戦力となっている「NERV」、その監視役となる「人類補完委員会」共に大きな発言力を得ている。これらの発言力を背景に人類補完委員会が「人類補完計画」を進行させるが、実際にそのシナリオを実行するのはNERVであり、その内容を知るものも少数に限られている。

● 対外組織との関係



使徒が襲来した2015年において、一般的には世界の中心たる組織は国連であると考えられている。そうした汎用兵器の中でも、独自の計画を推進してきた国連最高の特務機関NERV、そのNERVの管理・指揮やEVAの特殊な任務を持っている人類補完委員会が、特に中心的役割を担っている。ただ、国連そのものの組織が設立される以前から、ゼーレという一組織の影響力を受け続けていた。そのため、委員会的には「階上層にあるゼーレが人類補完委員会にシナリオを推進し、実行部隊であるNERVを監視する」という、国連自体は除外された奇妙な組織体系が構築されている。

● 人類補完委員会の構成

国連の一組織であり、人類補完計画に関する意思決定機構である人類補完委員会。その議長及び委員は国連が独自に選出している訳ではなく、実質的にはゼーレのメンバーによって構成されている。メンバーは独、米、英、露、仏の代表者5名。議長は独人のキール・ローレンツが務めている。

■ 独国代表（議長）



本プログラムを使ったバーチャル会議が、意見交換及び報告の場となっている。上層には必ず議長のキールが居る。それ以外の委員は、その発言位置は固定となっているようだ。

余命の場において、白色の光でフラットアップされた席に座る議長。ゲンドウへの接し方は他の委員と大きく異なり、人類補完計画により深く関わっている様子が窺える。

■ 米国代表



キールの左隣、緑色の光でフラットアップされた席に座っている委員。器用な口舌が特徴的。口舌そのものは落ちているが、受け持っている言葉は相手の非を的確に突く。

■ 英国代表



ゲンドウの右隣、赤色の光でフラットアップされた席に座っている委員。ゆがんだ英米人といった学究的男性性が、その物語は他の委員と隔絶し、潔癖的なものだ。

■ 露国代表



ゲンドウの左隣、青色の光でフラットアップされた席に座っている委員。いかつい眉骨から華やかな性格を推察できる。その発言は非難に始終することが多い。

■ 仏国代表



キールの右隣、黄色の光でフラットアップされた席に座っている委員。学者のような風貌と紳士的な高貴な「左衛門」という時代がかった口調が特徴的な男性。

ロンギヌスの槍

LANCE OF LONGINUS

人類とは異なる知的生命体によって創造されたその遺物が、「ロンギヌスの槍」と名付けられた理由は定かではない。人の手に余るサイズや人知を超えた能力など、その遺物の力は計り知れないものがある。そのような物体に、奇跡をもたらすと共に槍を失うと滅びを迎えるという逸話を持つ「運命の聖槍」と同じ名を与えるとは皮肉としか言いようがない。

出自がはっきりしないという意味では、伝承上のロンギヌスの槍も同様である。磔刑に処せられたイエスの血を帯びたことから所有者に無限の力をもたらすといわれるこの槍は、約五千年前に歴史上にその姿を現わした。神から鉱物を授けられた鍛冶屋のトバル・カインによって作られたというこの槍は、以来、エフド、 шамгай、キデオン、エフタ、サウル、ダビデ、ソロモンといった英雄に受け継がれ、アレクサンドロスによって封印された。それをローマ帝国が発見し、ガイウス・カシウスが十字架上のイエスにその切先を突き立てたのである。つまり伝説が正しいとするならば、神が与えた鉱物で作られた槍が最終的に神の代弁者の命を絶ったことになり、このことからロンギヌスの槍には神を断罪するだけの力があると謳われるようになった。新たに発見された「ロンギヌスの槍」も、現用兵器では覆滅不可能な使徒を一撃で屠るほどの力を有し、秘められた力という共通要素が同じ名前をもたらしたとも考えられよう。

しかし、ふたつのロンギヌスの槍には決定的な違いがある。それは槍自体の能力ではなく、槍の力をふるう行使者についてである。槍を使ってイエスの絶命を確認したガイウスは己の所業を悔い、のちに列聖者のひとりに数えられるまでになった(さらに槍の力は光を失っていたガイウスの目を癒したとも言われる)。このように本来の槍は、行使者に福音をもたらすものだった。槍が聖遺物として敬意を集めるのは、まさしくそのためである。ならば新たに人類にもたらされた「ロンギヌスの槍」は行使者たる人類にどのような福音をもたらすというのだろうか。すべての使徒を覆滅し、人類の繁栄を約束するというがこの槍の福音と考える向きもある。だが槍の力を正しく使う行使者としての資格が、我々にあると考えてよいのだろうか。そして資格がないとするなら、槍はどのような仕打ちを人類に対して成すというのであろうか……。

関連事項 RELATED MATTERS

- 第15使徒アラエル戦
- ロンギヌスの槍の回収
- 人類補完計画
- エヴァンゲリオン
- エヴァンゲリオンの装備



衛星軌道上に出現したアラエルにEVAの遠征兵器は通用せず、ロンギヌスの槍の投擲によって覆滅に成功した。



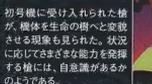
槍の能力とその危険性

槍の能力に対する推察

発見以来、創造者はおそらくその正確な機能も定かではない「ロングキヌスの槍」に対しては、多くの憶測が乱れ飛んでいる（NERVはかなり詳細な情報を得ているものの、その公開を拒んでいるとも言われる）。なかでも最も剣呑な説としては、槍の創造目的とその機能について語られたものがある。その説によれば、人類以外の知的生命体によって創造された槍と使徒の出自は共通であり、槍は使徒の機能停止のための鍵としてもたらされたというのである。知的生命体の頒布を目的とした創造者は生命の素と因子を送り出したが、そこから誕生した生命（この場合は使徒）が意に反する存在だった場合、その生命活動を停止し、卵に還元する能力が槍にはあるというのである。とはいえこの説は異端中の異端であり、ほとんどの者は目を向けようとはしない。さらに槍はNERVが厳重に管理しており、詳細な調査が進まないことがこのような異端の説を生んだのかも知れない。



リリスには魂がなかったため、槍の力は身体機能の抑制のみで留まったようだ。魂が存在する場合は、対象は卵まで還元されるかもしれない。



初号機に受け入れられた槍が、機体を生命の樹へと変換させる現象も見た。状況に応じてさまざまな能力を發揮する槍である。自意識があるかどうかによる。

特記事項

コピーされたロングキヌスの槍

NERV本部雑用庫に際してゼーレが投入した量産型EVAは両刃の大剣を装備していたが、これは必要に応じてロングキヌスの槍と同じ家に形を変えている。ゼーレのメンバーはこれを「ロングキヌスのコピー」と呼び、その能力はEVA号機を圧倒するほどのものだった。コピーとはいえ、その能力はオリジナルに準じるほど強力なものだったのかもしれない。



量産型EVAと二重螺旋構造の両刃大剣を装備した大剣型EVAは、NERV本部雑用庫に際してゼーレが投入した量産型EVAは両刃の大剣を装備していたが、これは必要に応じてロングキヌスの槍と同じ家に形を変えている。ゼーレのメンバーはこれを「ロングキヌスのコピー」と呼び、その能力はEVA号機を圧倒するほどのものだった。コピーとはいえ、その能力はオリジナルに準じるほど強力なものだったのかもしれない。



次の説明は、大剣はロングキヌスの槍の複製品であり、NERV本部雑用庫に際してゼーレが投入した量産型EVAは両刃の大剣を装備していたが、これは必要に応じてロングキヌスの槍と同じ家に形を変えている。ゼーレのメンバーはこれを「ロングキヌスのコピー」と呼び、その能力はEVA号機を圧倒するほどのものだった。コピーとはいえ、その能力はオリジナルに準じるほど強力なものだったのかもしれない。

発見場所

南極大陸地下または死海
槍の発見場所としてはふたつの地域が挙げられている。ひとつはセカンドインパクトの舞台となった旧南極大陸。大陸の地下には超古代の遺跡が埋蔵されていたとの情報もあり、それが真実ならば槍は発掘された遺跡と共通の発見されたのだと思われる。一方、死海も槍の発見場所と言われる場所である。死海周辺にも超古代遺跡が存在しており、さらに「東死海文庫」も発見されているとすれば、こちらの説も俗説といえないだろう。

保管場所

発見された槍は、A.D.2000に南極大陸の調査に向かった意識調査隊に送られ、その地で行なわれた実験に使用された。だがセカンドインパクトによって南極大陸は消失、槍も海中に没したかと思われたが、A.D.2015にNERV主導の地下回収作業が行なわれている。そして無事このルビカはNERV本部に送られ、ジオフロントの直下に位置するターミナルドグマに保管された。ちなみにドグマにはアダムと呼ばれる存在も安置されているとのことだ。



南極から回収された槍をターミナルドグマへ移送する番号機。この任務は機体で行なわれたとのことだ。

形状、構成素材、能力

槍のサイズが人が使うには大き過ぎることは前述しておき、このことから槍が人類以外の存在によって作られたことが推察される。また槍本体と穂先が一体形成となっていること、穂先が二股になっていること、穂先と槍が二重螺旋を描くような複雑な形状をしていることなど、人類が手掛けた既存のモチーフとは大きくかけ離れているのも特徴的といえる。さらに構成物質については一切不明であり、状況に応じて形状を変えること、時として自力推進（大気圏内飛行や宇宙空間での移動）が可能なこと、A.T.フィールドを突破するほどの力を發揮することなど、不明な機能が多々見られる。



アラールのA.T.フィールドに槍が突き立った瞬間。螺旋構造が一斉に逆立ち、貫通力を倍化させた。これもも一つの特殊能力のひとつである。



南極大陸を消滅させた。機体の水素を同時に溶解させる際に溶解させることで、機体の水素の下で、槍は球形を留めた。

使用事例

ロングキヌスの槍の使用が認められるのは、以下に挙げる4回のみ。これ以外にも調査目的で使用された可能性はあるが、記録としては残されていない。また使用が認められた件についても、詳細については不明な部分が多い。

1 アダムへの使用

A.D.2000に意識調査隊が南極大陸で行なった実験で槍が使用された。この実験の目的は「アダム」と呼ばれる巨人を卵の段階に還元することとされる。還元には成功した。だが暴走した槍がS機関を解放し、セカンドインパクトと呼ばれる大爆発を引き起こすこととなった。

2 リリスへの使用

NERV本部の地下に位置するターミナルドグマにはアダム（実はリリス）が安置されており、南極から回収された槍はリリスに用いられた。リリスの胸部に槍を突き立てることで、その生命活動を抑制したのと思われている（槍にかけられたリリスに身体が生成されないのもそのためである）。

3 第15使徒アラールへの使用

地球衛星軌道に出現した第15使徒アラールの精神攻撃によってEVA試写機は活動停止状態に追い込まれてしまう。この際、碓ゲンドウは槍の使用を許可。EVA番号機が槍を投擲してアラールを殲滅した。だがその後、槍は月軌道に移行してしまい、回収不可能となってしまった。

4 EVA初号機への使用

ゼーレによるNERV本部制作戦が進行する最中、碓ゲンドウが搭乗するEVA初号機が姿を見失う。するとゼーレは初号機を復活とする儀式（サードインパクト）を開始し、それに呼応するように月軌道から槍が飛来。初号機のコアと融合し、最終的に初号機を「生命の樹」へと変換させた。これが槍の究極的な能力なのではないかと思われる。



胸部を槍で貫かれたリリスは活動停止しているが死んだわけではなく、槍は生命活動を封じるのに用いられた。



番号機が分離し、槍は自分の力で加速して衛星軌道に到達。そこで使徒の生命活動を封じるのに用いられた。A.T.フィールドを突破してみせた。

■エヴァンゲリオンと槍とのサイズ比較

槍と初号機のサイズを比較してみると、軸の部分だけでも初号機の2倍以上あるのがわかる。それほどまでに槍は長大なものである。ただし槍の二重螺旋構造が縮小されることで穂先と軸の比率も変化するので、ここで示した比較図はあくまでイメージでしかない。



大抵の母は初号機よりも槍の長さで劣る。飛行甲板はほぼ1対1である。

旧東京

新型爆弾によって壊滅した東京。2000年9月20日に投下され、50万人の人命が失われたと、碇シンジたちの使う教科書に記述されている。なお、日本の臨時政府は高層化した東京の復興を断念。首都機能は長野県松本市に遷り、第2新東京市が築かれる運びとなった。



第28放置区域(旧東京都心)

都心の大半が水没している旧東京。一部は埋め立て地として再開発され、試験場などに利用されているようだ。

旧東京再開発臨海部国立第3試験場

J.A.の披露実演会が催された試験場。埋め立て地として活用されている旧東京都心の第28放置区域にある。J.A.の運用試験が行えるほどの広い敷地を持つ。また、トーチカ内にはJ.A.の運用、実験のための制御室が急造されているほか、披露実演会の際にはパーティー会場が設けられた。試験場としての規模は大きく、フレキシブルな運用を可能とした施設である。



ドーム状のトーチカがあり、車両用の入り口のほか、ヘリなど航空機用の広い駐機場が充実した試験場である。

教師

第3新東京市立第壹中学校の教師。数学を担当しており、授業中にセカンドインパクトの思い出を語る癖を持つ。彼が当時住んでいたという樺府川(神奈川県小田原市)は、2015年現在、水中に沈んでいる。



生徒の大騒ぎにも気が付かないほど、セカンドインパクト当時の思い出に没頭する老教師。何度も繰り返して語るほど劇的な事件だったのであろう。

教授

京都大学の教授。碇ユイの書いた生物学の論文を面白いと評価し、彼女に冬月コウゾウを紹介した人物である。学生とは頻りに鴨川へ飲みに行っているようだ。



京都大学当時の冬月を飲みに行き、彼に対して「優秀だが人のつき合いを軽く見ている」と酒の高でたしなめていた。

共生

異なる生物種間での相互依存関係。第拾巻において第11使徒イロウがMAGIをハッキングした際、自滅促進プログラムを送り込んだ場合の結果として、イロウが死の効率的な回避を考へ、MAGIとの共生を遥か可能性を赤木リツコは示した。



EVA初号機に取り込まれた碇シンジ。第貳拾巻において、彼の内部世界でも「共生」の文字が見られる。

強制サルベージ

第12使徒レリエルを形成する“ディラックの海”から、EVA初号機を救出する作戦。現存する992個のM2地雷をレリエルの中心部に投下。そのタイミングに合わせ、零号機と式号機のA.T.フィールドで使徒の虚数回路に1/1000秒間だけ干渉。その瞬間に爆発エネルギーを集中させて使徒を形成する“ディラックの海”ごと破壊する。初号機救出のために可能と思える唯一の方法だが、操縦者の生死は問わず、機体の回収を最優先に据えた作戦であった。なお、暴走した初号機が自力で脱出するため、作戦は実行に移されることなく終わった。



サルベージ対象は初号機の機体であり、碇シンジの生死は問わないと語る赤木リツコ。そのことに激昂した葛城ミサトは、思わず彼女の頬を打つ。

強制排出

第拾九話において、EVA初号機に立てこもった碇シンジの排除。碇ゲンドウの采配によって、結果的に友人を傷つけることとなったシンジは、父に抗議するためエントリープラグをロック、発令所からの射出信号を受け付けない状態で初号機内に立てこもる。しかし、L.C.L.の圧縮濃度を限界まで上げられて失神、同機から強制排出された。



レーザーカッターでエントリープラグの非常ハッチを切断し、失神したシンジを運び出した。

京都

第拾伍話において、マルドゥック機関を探る加持リョウジが訪れた日本の古都。ダミー企業であるシノノン・バイオという外資系ケミカル会社の登記があり、加持はそこで日本政府の課税員らしき人物と遭遇。本部の内外に傍行の行動に対し警告を受けている。また、第貳拾巻話において、冬月コウゾウ、碇ユイ、六分儀ゲンドウたち3人が出会った地であることが語られた。



1999年当時、冬月は京都大学形而上生物学の教授をしており、ユイは大学の研究生であった。

京都府警察署

六分儀ゲンドウと冬月コウゾウが初めて対面した場所。「降ってケンカ」したという六分儀ゲンドウが留置されていた。



噂を聞いていただけで面識はない人物、ゲンドウからの指名を受けた冬月が、身元引受人として訪れた警察署。

